

授業モデル2 中学校第1学年「根拠を明らかにして伝え合う『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」(4/9)
(光村図書 国語1)

目標

- ・ 意見と根拠，具体と抽象など，情報と情報との関係について理解することができる。(知識及び技能) (2) ア
- ・ 根拠を明確にしながらか自分の考えを伝えることができる。(思考力，判断力，表現力等) (1) ウ

| 授業充実の3ポイント | 主な学習活動 | 時間形態 | 教師の具体的な働きかけ |
|---|--|---------|---|
| <p>○ 課題意識の焦点化</p> <p>○ 学習課題の設定</p> | <p>1 前時の学習を振り返る。</p> <p>2 筆者の意見を再検討することで説得力が増すことを確認する。</p> <p>筆者は，シジュウカラの鳴き声について仮説を立て，いくつかの実験を行ったんだね。</p> <p>実験の結果を説明するために，筆者は，5枚のグラフを使ったと思うんだけど…</p> <p>なるほど…。では筆者が，「5枚のグラフ」を使ったのには，わけがありそうだね。</p> <p>3 学習課題を設定する。</p> <p>筆者は，なぜこの5枚のグラフを使ったのだろうか。</p> <p>4 学習の流れを確認する。</p> | 5 一斉 | <p>○ これまでの学習を振り返らせ，本時の学習について確認させる。</p> <p>視点1</p> <p>目的意識を明確にして学ばせるために，問題意識をもたせる導入の工夫。</p> <p>○ 文章と図表等を関係付けて読み，それに対して自分の考えを表現することに課題のある大島地区の生徒に対して，身に付けたい力を明確にするために学習課題を設定する。</p> <p>○ 5枚のグラフを提示し，学習の進め方を考える。</p> |
| <p>○ 自力解決による最初の考えの構築</p> | <p>5 グラフ1～5から分かることについてまとめ，仮説1・2に分類する。</p> <p>選択的学習</p> <p>1 グラフを見て分かったことをまとめさせる。</p> <p>2 教材文に線を引かせる。</p> | 7 個人 | <p>視点2</p> <p>グラフと叙述を比較したり関係付けたりして読みを深めさせる場の設定。</p> <p>○ 解答をワークシートで示す。</p> |
| <p>○ 考えの共有(学び合い)</p> | <p>6 分類したグラフから関係付けて読み取れることを，それぞれまとめる。</p> <p>(グラフ1・2・3) 教P129</p> <p>ジャージャーと鳴き声を聞いたときだけ，地面を確認している。(ジャージャーという言葉へびだと認識している。)</p> <p>3つのグラフは，シジュウカラがへびを警戒して，地面を確認するためにジャージャーと鳴くことを示しているね。</p> <p>でも，ジャージャーがへびを示す単語だと本当にこのグラフで示せるだろうか？それを証明するために，さらに検証したのではないかな？</p> <p>(グラフ4・5) 教P131</p> <p>ジャージャーという鳴き声を聞いたときだけ，へびのように左右に動かした小枝に接近し確認する。しかし，へびのように動かさない小枝の場合は確認しない。</p> | 3 一斉 | <p>○ 解答をワークシートで示す。</p> <p>○ 本時のまとめを意識させながら，考えさせる。</p> <p>視点3</p> <p>読み取ったことを自分の言葉で表現する活動の充実。</p> <p>○ 学習者が課題解決に向けた最適な学びができるようにするために，個人での思考や他者との学び合いなど，学習形態を自由(個人，ペア，班)にする時間を確保する。</p> <p>○ 意見を共有するために場の設定をする。(ICTを活用し意見を集約する。)</p> |
| <p>○ 自力解決による最終的な考えの構築</p> <p>○ 学習のまとめ</p> | <p>7 本時のまとめを行う。</p> <p>複数のグラフを示すことで根拠が明確になり，主張に対して説得力を増すことができるから。</p> <p>条件1 キーワードとして，「複数」，「説得力」を用いて書く。</p> <p>条件2 50字以内で書く。</p> <p>条件3 5分で書く。</p> <p>8 次時の見通しをもつ。</p> <p>小学校教材文「固有種が教えてくれること」，資料教材「幻の魚は生きていた」の教材文を使い実際に図表の読み取りを行う。</p> | 5 個人 | <p>○ まとめることが難しい生徒に対し，空所補充などの手立てを行う。</p> <p>○ 今回の学びが，今後のレポート作りに生かされていくことに気付かせる。</p> <p>○ 次時の活動は小学校の国語科リーフレットの活動を参照する。</p> |

【コアティーチャーネットワークプロジェクト国語科部員】

原之園 翔吾(伊津部小)，里 亜希子(赤木名小)，井上 里美(大和小)，田平 絹代(名瀬中)
松崎 裕也(田検中)，浪瀬 慶視(犬田布中)，當房 省吾(龍郷町教育委員会)，山田 克美(大島教育事務所)

令和5年度

学力定着のためのリーフレット 国語科編 ＝コアティーチャーネットワークプロジェクトまとめ＝

大島教育事務所

大島地区の国語科の課題



「読むこと」「書くこと」

文章と図表等を関係付けて読み、それに対して自分の考えを表現すること

令和4年度鹿児島県学習定着度調査
(右の問題)によると…

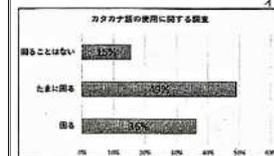
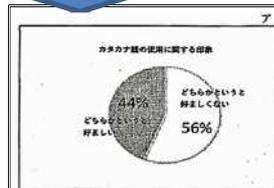
通過率
()は県との比較
小5…49.7%
(+1.4%)
中2…56.6%
(-3.8%)

無答率
小5…5.4%
中2…0.9%

小5は無答率
が高く、中2は
通過率が低い

県平均と大島地区の通過率の比較、大島地区の無答率の結果から、「資料を活用するなどして、自分の考えを表現すること」「文章と図表を結び付けて内容を解釈すること」が難しい児童生徒が多いことが分かりました。

文章と図表を関係付けながら読むことは、筆者の主張の根拠を捉える手がかりになります。そのために、まずは、その図表と対応する文を見付けさせることが大切です。



中学校二年(大問3ー二)
—線部②の文を書く際に、高木さんが参考にした図表として用いたと考えられるものを、次のア～エの中から二つ選び、その記号を書きなさい。

小学校五年(大問4ー三)
林さんはじゅう医さんへのインタビューを終えて、「発表原稿の下書き」の□に書き加えることにしました。条件に合わせて五十文字以上、八十文字以内で書きましょう。
<条件>②【インタビューの様子】、【資料①】、【資料②】の中から、根拠となる言葉や文、数字等を取り上げて書くこと

目指す授業



この単元を通して、目指す子供の姿

- 【小学校】 子供が図やグラフ、写真などの資料と文章を関係付けて読み取り、自分の考えを表現し、伝え合う楽しさを味わう。
- 【中学校】 子供が情報(文章や図表等)を比較したり、関係付けたりしながら読み深め、分かったことを自分の言葉で表現し、伝え合う楽しさを味わう。

授業のポイント



- 【視点1】 課題意識を高め、意欲をもたせる導入の工夫
- 【視点2】 情報(文章や図表等)を比較したり関係付けたりして読みを深める場の設定
- 【視点3】 読み取ったことを自分の言葉で表現する活動の充実



それでは、授業のポイントを踏まえて、令和5年度コアティーチャーネットワークプロジェクトで作成した授業モデルを見てみましょう。

授業モデル1 小学校第5学年「資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう」(3/11)

- (1) 単元名 資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう
 (2) 教材名 「固有種が教えてくれること」
 「グラフや表を用いて書こう」 (光村図書 国語5 銀河)
 (3) 目標 ア 情報と情報との関係付けのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(知識及び技能) (2) イ
 イ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思考力、判断力、表現力等B) (1) エ
 ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。(思考力、判断力、表現力等C) (1) ウ

(4) 単元の指導のポイント

- 【視点1】 問題意識を高め意欲をもたせるために、郷土の素材を活用し、試し書きをさせる。
 【視点2】 読みを深めさせるために、情報(文書や図表等)の関係や資料を用いた文章の効果について考えさせる。
 【視点3】 自分の考えが伝わるように、選んだ資料を基に書き表し方を工夫させる。

(5) 単元の学習計画(全11時間)

| 時間 | 教材名 | 主な学習活動 | 指導上の留意点 |
|---------|----------------|---|--|
| 第1時 | 「固有種が教えてくれること」 | <ul style="list-style-type: none"> 「アマミノクロウサギのロードキル数」のグラフを見て自分の考えを書く。 (<u>試し書き</u>) 学習計画を立てる。 | <ul style="list-style-type: none"> 学習意欲を高めるために、郷土の素材を使ったグラフを活用する。 単元の見通しをもたせるために、学習計画を立てる。 |
| 第2時 | | <ul style="list-style-type: none"> 文章の構成を考え、本文の大まかな内容を捉える。 日本に固有種が多い理由と生き続けることができた理由を読み取る。 | <ul style="list-style-type: none"> 資料の効果を捉えるために、資料なしの教材文を提示する。 |
| 第3時(本時) | | <ul style="list-style-type: none"> 資料と本文を照らし合わせ関係付けて読み取り、資料を用いた効果を考える。 | <ul style="list-style-type: none"> 資料の効果を考えさせるために、資料ある・なしの両方を比較させる。 |
| 第4時 | | <ul style="list-style-type: none"> 筆者の考えを捉え、文章の要旨をまとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> 言葉を取捨選択して文章を書かせるために、条件を与える。(150字以内) |
| 第5時 | | <ul style="list-style-type: none"> 文章についての自分の考えをまとめる。 分かりやすい文章表現を考える。 統計資料の読み方について確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> 分かりやすい文章の書き方を捉えさせるために、試し書きと新聞記事を比較し、段落構成、接続語、事実と意見の区別等に注目させる。 |
| 第6時 | 「グラフや表を用いて書こう」 | <ul style="list-style-type: none"> これまでに読んだ資料から、分かったことと資料の効果をまとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」に生かすために、社会科資料集などの資料を参考にさせる。 |
| 第7時 | | <ul style="list-style-type: none"> 目的に合った資料を選ぶ。 文章の構成メモを考える。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを分かりやすく伝えるために、資料の数を考えさせる。 |
| 第8・9時 | | <ul style="list-style-type: none"> 構成メモを基に、文章を下書きする。 下書きを読み合い、互いにアドバイスをする。 | <ul style="list-style-type: none"> より良い内容の文章にするために、学び合いの中で訂正や修正を行わせる。 |
| 第10時 | | <ul style="list-style-type: none"> 下書きを基に文章を完成させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 誤字・脱字がないか、内容を確認するために、読み直しをさせる。 |
| 第11時 | | <ul style="list-style-type: none"> 書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。 | <ul style="list-style-type: none"> 感想を伝える際の視点を明確にして提示する。 |

注：資料とは、教科書の図やグラフ、写真のことを表しています。

(6) 本時の実際 (3/11)

目標

- 資料と文章を結び付けるなどして、資料の効果を考えることができる。(思考力、判断力、表現力等)(1)ウ
- 対話活動により、自分の考えを再構築することができる。(思考力、判断力、表現力等)(1)オ

| 授業充実の3ポイント | 主な学習活動 | 時間形態 | 教師の具体的な働きかけ |
|--|---|---------------------------------|---|
| <p>【目標の明確化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 興味関心が生まれる導入 ○ 課題意識の焦点化 ○ 学習課題の設定 | <p>1 前時の学習を振り返る。</p> <p>日本に固有種が多いわけは、日本列島の成り立ち、気候や地形的なちがいが、環境保全だったね。</p> <p>2 資料がない本文、資料がある本文を比較する。</p> <p>昨日読んだ文章には、実は、このような資料(資料2)がついています。資料がある、なしでどのように変わりますか。</p> <p>大陸といつ離されたか、図の方が分かるよ。</p> <p>いつの時代のことか、分かりやすいね。</p> <p>3 学習課題を設定する。</p> <p>資料があると、どのような効果があるのだろうか。</p> <p>4 学習の見通しをもつ。</p> | <p>3 一斉</p> <p>7 一斉</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料の効果を考えさせるために、教材文は3点用意する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料なし、本文のみ(第2時に利用) ・ 資料あり、資料の表題抜き(本時に利用) ・ 教科書 ○ 教科書は本時終了まで見せないようにする。 ○ 資料2に対応している本文のみの教材と、資料2と本文が並列している教材の2種類を利用する。 <p>視点1</p> <p>目的意識を明確にして学ぶために、自分なりの問いをもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自力解決をスムーズに進めるために、資料1について、全体で考えさせる。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 自力解決による最初の考えの構築 | <p>5 資料と文章のどの部分に対応するのか線を引き、資料の表題に当てはまるキーワードを探す。</p> | 10 個人 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料2・3・4について考えさせる。 ○ 資料と文章を結び付けて読み取らせるために、資料の表題になりそうなキーワードを本文から探させる。 |
| <p>【山場の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 考えの共有(学び合い) | <p>6 ペアで意見を交流し、自分の考えを再構築する。</p> <p>資料3は気温の資料だから、本文ではここに当てはまるね。</p> <p>資料2は本文に「日本列島の成り立ち」って書いてあるから、表題にこの言葉が入るのではないかな。</p> | 10 ペア | <ul style="list-style-type: none"> ○ 考えを再構築させるために、対話活動の視点を基に意見を交流させる。 <p>対話活動の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なぜその表題にしたのか。(根拠含む) ・ お互いの考えの共通点、相違点は何か。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 自力解決による最終的な考えの構築 | <p>7 筆者が資料を使った効果を考える。</p> <p>前の授業で使った文だけの説明と、資料と文を使った説明とどちらの方が分かりやすいですか。</p> <p>資料と文章がある方が、筆者が言いたいことが伝わりやすいね。</p> <p>読んでいるわたしたちにとっても、資料がある方が理解しやすいね。</p> | 5 一斉 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 筆者の立場と読み手の立場から考えさせる。 <p>視点2</p> <p>資料と文章を対応させることで、図表の効果を考えさせる。</p> |
| <p>【確かめ・見届け】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習のまとめ ○ 振り返り | <p>8 学習のまとめをする。</p> <p>(例) 資料を使うことで、筆者は自分の主張を説得力のあるものにできる。読み手は、筆者の考えをより分かりやすく受け取ることができる。</p> <p>児童の実態に応じてまとめ方を工夫する。</p> <p>9 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 分かったこと ・ もっと知りたいこと ・ 生かしたいこと ・ できるようになったこと ・ 友だちの考えでなるほどと思ったこと など | 10 個人 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習課題を振り返り、60字程度でまとめさせるために、下のキーワードをもとに考えさせる。 <p>【キーワード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 筆者 ・ 読み手 ・ 主張 ・ 説得力 ・ 分かりやすい ・ 受け取る <ul style="list-style-type: none"> ○ 読み取ったことを、次時の要旨をまとめる学習につなげる。 |

※ 視点3については、単元計画の第6時以降で取り扱うため、この本時の中には出てきません。

【演習問題について】 国語科では、一単位時間の中で演習問題に取り組むのではなく、単元の始めや終末で取り組むことも考えられる。※ 本単元に関連する演習問題の例<国語WEB問題>「5年『書くこと』(3) グラフや表を用いて書こう」